

新しい公共の場づくりのためのモデル事業

県民参加の県づくり推進事業(新しい公共支援事業)のうち、多様な主体による地域課題解決のためのモデル的な取組みについて紹介します。24年度は、18件の応募の中から11件の事業が採択されました。

❖ ひとり親家庭等在宅子育て応援事業(採択額300万円)

【子育て親育ち エッグ(NPO法人こんべいとう ほか)】

子育て家庭への様々な支援策が推進されていますが、最上地域ではまだまだ制度が浸透していない上、利用に際しての制約も多く、実際の利用に至らない現状にあります。本事業ではこれらを補完するため、ひとり親家庭や核家族世帯を対象とした訪問型一時預かり事業や、講演会・交流会の場を設け交流を深める事業などを行いました。実施にあたっては、地域での支援者を募りつつ、構成団体のコーディネーターを中心として展開し、また、関係機関と協働する中で県や市との連携が強まり、保健師との繋がりも深くなってきています。

利用者からは、「気持ちに余裕を持てるようになった」、「病院受診をゆっくりすることができた」、「久しぶりに美容室に行けた」、「上の子の行事に集中できた」など、評価されました。近所付き合いが薄れていく中で、地域での見守りや助け合いなど、身近な結びつきが強くなることを期待し、今後も継続して取組みを進めていきます。



(親子そば打ち教室→)

❖ 父と子の社会参加支援事業「GOCCO」プロジェクト「お父さんと子どもの履歴書づくり」(採択額200万円)

【GOCCO推進協議会(NPO法人いぶき ほか)】

「ごっこ遊び」(模擬店)をきっかけに、様々な人たちとかわかることの大切さ、ありがたさを体験する「GOCCOプロジェクト」。子どもたちの様々な夢を「ごっこ遊び」を通して、職業を実際に体験することにより、将来の自分の姿を創造し、感じる(イメージ)力を育むための事業です。

今年度は子どもたちのラーメン屋さん、「ジュニアラーメンフェスティバル」を企画。子どもたちが自ら会議を開催し、地元のラーメン屋さんとは何度も練習会を行い、準備を進めました。当日は400人もの来場者で大盛況。たくさんの来場者を前に張り切って調理する子どもたち、想いを形にする喜びを味わうことができたようです。

今後も様々な疑似体験ができる「ごっこ遊び」の場を、それぞれの地域で独自に実施できる環境を作りながら、子どもたちの感性を育み、地域力を育む活動として継続していきたいと考えています。



❖ 復興拠点づくりを通して新しい公共の場構築事業(採択額340万円)

【復興に向けた新しい公共の場づくり協議会(NPO法人グラウンドワーク寒河江 ほか)】

気仙沼市津谷大沢区に設置した「復興に向けた新しい公共の場づくり協議会気仙沼事務所」を拠点に地元の皆さんに寄り添いながら復興に向けた支援活動を行っています。住民と支援者、企業、行政が協働で復興まちづくりをスタートさせ、活動を通して交流を深め、地域の枠を超えた新しい公共の場の構築を目指しています。

昨年度、地元の方々とは会議を重ね、半年をかけてまとめあげた『津谷大沢区復興計画』を基にして、気仙沼市への協力要請の働き掛けや、復興計画の実践活動の一つとしてイベントの実施、防災、景観などに配慮した花植え、桜の苗木の提供等を行う中でさらに交流を深め、信頼関係を育んできました。

今では復興のまちづくりも少しずつ津谷大沢区の地域住民主導に切り替わり、開催できなかった様々な地元の行事やイベントも実施されるようになりました。自主性を尊重しながら、復興支援を続けていきたいと考えています。



(震災復興会議→)

❖ 市民参加型ミュージカル「ハッピーバースデー～命かがやく瞬間(とき)～」制作上演(採択額100万円)

【市民参加型ミュージカル実行委員会(チームツナミ ほか)】

平成24年8月5日、鶴岡市文化会館で公演しました。明るく楽しい中にも、じわじわと伝わる深いテーマ。カーテンコールで、小学生座長(ヒロインあすか役)が、「私たちは、これからも舞台の上から、『ストップいじめ、ストップ虐待』を伝えていきます。」と挨拶。客席を埋めた800名の観客の拍手を浴びました。

ミュージカル初参加の子どもたちを、支え育成した実行委員会メンバーは、行政・地域ボランティア団体・地元ダンスチーム・演劇団体など、多岐にわたりました。招聘公演ではなく、参加者募集から始めて稽古・公演するのは、手間暇かかる作業でした。でも、参加児童・生徒の成長ぶりが何よりうれしく、多くの大人たちが自主的に支えてくれたのは、その喜びをもらえたからこそ。ご協力くださった方々に感謝しつつ、これからも舞台の上から「ストップいじめ、ストップ虐待」のメッセージを伝えたいです。



❖ 年齢、生業、住み処を超えて心を紡ぐ元気創造山形かわにし「綾プロジェクト」(採択額500万円)

【山形かわにし「綾プロジェクト」推進協議会(えき・まちネットこまつ ほか)】

中心市街地の活性化や、駅周辺のにぎわいと町並みづくりにスポットを当てながら、個性あるまちづくりを目指し、住民の当事者意識を醸成し、住民が主体的に参画するプロジェクトを創出してきました。空き地や空き店舗の再活用も含めた潤いとにぎわいのある「まちの再生」を図るとともに、世代間交流や、農村と都会の人的物的交流に取り組みながら実施しています。

主な事業は次の通りです。①高校生のチャレンジショップ&まちなかカフェの開店、②駅前マルシェ(朝市)の開催、③駅前通りの歩行者天国の開催、④まちなか巡りの実施、⑤農村と都会の交流(農都交流)の実施、⑥伝統料理・郷土料理コンペティションなど。このような取組みを通して、活力あるまちの実現に向け、住民が一体となったまちづくりの仕組みが、芽吹き、成長しようとしています。



(駅前マルシェ→)

❖ しまcafé プロジェクト(採択額260万円)

【とびしま未来協議会(NPO法人パートナーシップオフィス ほか)】

「飛鳥」の地域資源を活用し、漁業や観光業の再生、交流人口の拡大や産業・雇用の創出、また島内外の交流の拠点を目的に「しまcafé」を設置しました。飛鳥の特産物を使用した飲食物の他に、観光客向けに島内の情報も提供しました。イベントには島民も準備段階から参加し、「飛鳥不思議探検～流星群と海ホタルを見るツアー」や「流しそうめん祭」「移動café法木地区」などを開催しました。

約2か月(7/17~9/23)の営業期間中の来場者数は約4200人で、1日平均約140人と、大変好評でした。多くの島民の参加や協力があり、事業開始前よりも島民の地域づくりに対する意欲も高まりました。協議会が行った離島振興計画策定のためのアンケート調査や意見交換会では、しまcaféを次年度も継続してほしいとの意見が多く出されました。次年度以降へ向けての課題もあるので、今後、協議会内での島民や関係各所との話し合いを進め、さらによいものにしていきたいです。



❖ 橋詰のランドマーク旧イチローチ商店の再生・活用を通じたまち・川再生プログラムの実践(採択額500万円)

【イチローチ・まち・川再生プロジェクト協議会(NPO法人公益のふるさと創り鶴岡 ほか)】

このプロジェクトは橋詰のランドマーク「旧イチローチ商店」を活用した、地域の活性化を目指し未来へのまちづくりを進める取り組みです。①旧イチローチ商店の建築的、文化的価値を継承し発展させる、②市民による歴史的建造物再生のモデルをつくる、③街の中で多くの人に使われる場所をつくる という3つの方針を基にしています。

主な活動としては、市民参加型デザインワークショップの開催(内川学、まちあるき)、周辺地域との一体的な実験イベント(ギャラリー、フォトコンテスト、ジャズライブ、イベント空間としての活用)、持続的な運営のための資金調達の勉強会、現状建屋の調査などを行っています。平成24年5月19日に開催された地域のお祭り「山王ナイトバザール」の際は、昔の街並みを記録した写真を展示し、地元ジャズバンドの演奏が行われました。市民との共有の場として活用を試みています。



❖ 長井ダム水源の保全・開発プロジェクト(採択額400万円)

【長井ダム水源の保全・開発プロジェクト協議会(NPO法人最上川リバーツーリズムネットワーク ほか)】

長井ダムを活かし、水源地域の自立的・持続的な活性化と、地域内だけでなく流域圏として発展を図ることを目的として、長井ダム水源の保全開発プロジェクトがスタートしました。

事業の柱として、水源地域のエコロジカルな開発と保全を図るために、再生可能エネルギーの活用など、環境面での取組みを行っています。現在、地元企業との協働で、汎用性のあるマイクロ水力発電機の研究開発と設置に向けた検討を行っています。

また、水源地域を大切にす人材、サポーターの戦略的な育成と活用を目指し、全国初のウォーター・インタープリター養成講座を実施しています。講座では、水の案内人が観光や教育の現場で活躍できるよう、水に関する専門知識や環境教育および歴史・文化に至るまで、実習を交えながら専門講師から指導を受けています。今年度は10名の案内人を養成し、将来的に、若者や退職者の雇用確保につながればと考えています。



(ウォーター・インタープリター養成講座→)

新しい公共の場づくりのためのモデル事業

❖ 「やまがた地域づくりカレッジ」開催事業（採択額300万円）

【やまがた地域づくりカレッジ運営協議会（NPO法人山形創造NPO支援ネットワークほか）】

県内には多数の地域づくり団体があり、地域に根ざした活動を続けています。昨今の社会環境の変化により活動の重要性が見直されてきている現状を踏まえ、平成24年12月15・16日の両日、東根市を会場に「地域づくりカレッジ」を開催しました。

1日目は、行政に頼らない感動の地域づくりの実践者、鹿児島県やねだん（鹿島市）の公民館長豊重哲郎氏の基調講演、地域づくり活動団体による地域の特長を生かした活動事例の発表。2日目は、総務省前局長椎川忍氏の「『緑の分権改革』を实践する人づくりとネットワークの構築」の講演、県内各中間支援組織の代表者等による活動の評価や活動資金調達等より良い活動の方策についての話し合いを行いました。

セミナーでは学生による地域調査の結果発表等もあり多くの学生が参加し、地域を超えた交流の場面が多く見られました。



❖ 福島～山形絆の架け橋推進プロジェクト（採択額800万円）

【絆の架け橋推進協議会（山形ボランティア隊ほか）】

被災県と山形県をつなぐ架け橋として、県内における東日本大震災に伴う被災者・避難者の支援、ボランティアの人材育成事業に取り組んでいます。

①福島・山形間の週末移動支援バス「うえるかむ号」の運行…福島県からの母子避難家族を中心に毎月およそ100名の利用があり、避難者が週末を家族で過ごすための足として定着しています。

②沿岸被災者の週末保養を目的とした移動支援バス「けらっしやい号」の運行…宮城県沿岸の被災された方々を山形にお迎えし、さくらんぼ狩りや芋煮でのおもてなしを実施しました。③ボランティア間で課題を共有し理解を深める研修会の開催…座学のみならず宮城県被災地での実地活動を含めて開催し、被災者への理解を深めて息の長い支援活動を続けるとともに、県内の防災力向上に貢献できる人材育成に取り組んでいます。

（うえるかむ号→）



❖ モンテディオパーク&アベニュー構想実践プロジェクト（採択額500万円）

【モンテディオパーク&アベニュー構想実践プロジェクト会議（社）山形県スポーツ振興21世紀協会ほか】

“地域の魅力づくり”、“地域の活性化”という課題をモンテディオ山形の力を借りながら、産学官民が連携して解決する取組みを進めています。

1 モンテディオ パーク事業…ホームゲームに、「J2クラブ“ご当地の逸品”全員集合」（全国の地方新聞社が共同運営する47CLUBと協働）、「さくらんぼ狩りスポーツツーリズム」（地元観光協会と協働）、「フェイスペイント」（地元大学と協働）などを併催し、スタジアムを“ワクワク、ドキドキするような魅力あるパワースポット”として磨き上げています。

2 モンテディオ アベニュー事業…山形駅前大通り及び天童駅前・温泉街通りを「モンテディオアベニュー」と称し、現地で、「サッカー体験」（モンテディオ山形と協働）、「モンテディオ山形応援看板の設置」（地元大学と協働）などを行い、商店街をスポーツの息吹で活性化しています。

（フェイスペイント→）



ネーミングライツの活用で企業のイメージアップ！

やまがた社会貢献基金では、支援したい活動の分野や地域などの希望を沿えることができる「テーマ希望寄付」を設けており、さらに、協働助成事業名に企業名を冠する「ネーミングライツ」を取り入れております。綿密な打合せのうえ募集内容を決定の後、県ホームページやNPO団体への案内などで事業を募集し、事業採択にあたっては特別審査員として審査にも参加していただけます。また、寄付者として実際の活動に参加することもできます。

企業のイメージアップ、地域との絆づくりに是非ご活用ください。

（24年度の例）

- ・ YBSグループ 街から始める環境保全支援事業
- ・ 渋谷建設 ふるさと山形の未来を築く子育て支援事業